

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな	てら の ひよんどり	担い手	寺野伝承保存会
名 称	寺野のひよんどり	文化財指定	国指定 平成6年(1994年)
場 所	浜名区引佐町渋川877 宝蔵寺観音堂 通称：三日堂(みっかどう)	開催日	1月3日
概 要	「遠江のひよんどりとおくない」として「川名のひよんどり」「寺野のひよんどり」「懷山のおくない」が同時に国指定を受けている。ひよんどりは「火踊り」がなまったもので、松明(たいまつ)を手に舞い踊る様からの名称。五穀豊穡(田んぼや畑でたくさんの作物が育つこと)などを祈る祭礼で、「三日堂祭礼」とも呼ばれる。		
起 源	観音堂に残る棟札(むなふだ=建物に残る建築や修築の記録が記された札)や古文書から、寺野地区を開拓した伊藤刑部祐雄(ぎょうぶすけかつ)が戦国時代に三河から来て、16世紀末には始められていたと推定される。観音堂における修正会(しゅうしょうえ=中世に各地で隆盛した寺院の正月行事)の余興として予祝芸能が行われたことに発する。		
演目・楽器	最初は地主神(ガラン様)の祭りが行われ、現在は御神楽(おかぐら)と万歳楽(まんざいらく)を第一番に、第十三番まで舞が続く。寺野の舞は「五方に舞う」のが特徴で、正面二回を含め右左右と回転するのが基本になっている。特に勇壮なのが「鬼の舞」で、三匹の鬼が激しく舞いながら松明の火を乱打させる。昔はさらに多くの舞や田楽の所作などがあり、途中で汁かけ飯などを食べる風習もあったが、現在は行っていない。使用されている面は、元禄11年(1698年)、元禄13年(1700年)、宝永2年(1705年)などの年号が記入された、古くから伝えられているものが17点あり、そのうち5点は漆塗りで大変貴重である。		
変遷 現在の姿	祭事に関係する家である講衆、囃子方、舞手はほとんど各家ごとに伝えられてきたものの、途中で途切れた。昭和36年(1961年)に保存会が結成されて復活。		

●作成年月日／令和6年9月30日現在の情報

